

# ISS における FD 活動報告：ISS 教員勉強会の紹介

荻 山 靖<sup>1)</sup> 神 田 忠 彦<sup>1)</sup> 安 田 貢<sup>1)</sup>

## I. はじめに

ISS における FD 活動は、学部設置された FD 委員会が中心となって進めている。本委員会のタスクは、「授業研究、研究関連業務（研究・勉強会の企画と運営）、学会大会への対応など」である。2017 年度では、2018 年 3 月 21 日と 22 日に開催される「日本コーチング学会第 29 回大会」の準備を、FD 委員会が中心となって進めてきた。また、FD 委員会では、山梨学院大学の強化育成クラブを統括する「山梨学院カレッジスポーツセンター（以下、カレッジスポーツセンター）」の協力のもと、スポーツ科学部における今後の活動内容を検討する勉強会（以下、ISS 教員勉強会）を企画・運営している。本稿では、ISS 教員勉強会の概要を紹介させていただく。

## II. ISS 教員勉強会の開催背景と内容

2016 年 4 月にスポーツ科学部が設置され、2017 年度で 2 年目となる。完成年度に向けたスポーツ科学部の課題の一つとして、山梨学院大学、カレッジスポーツセンター、さらには地域社会と連携した体育・スポーツ活動の実施が挙げられる。ISS 教員勉強会は、その方略を探ることを目的とした、スポーツ科学部教員における情報収集・共有の場である。その第一段として、2017 年 11 月から、カレッジスポーツセンターと各強化育成クラブの現状と課題把握への取り組みが開始された。

カレッジスポーツセンターとは、1977 年、学校法人山梨学院に設立され、「強化育成クラブの振興」、「体育・スポーツの向上」、「国際競技会・地域交流」を 3 つの柱とし、学生スポーツ文化の創造と日本のスポーツへの貢献を目標とした組織である。競技力向上と人間性の涵養を基本理念に、優秀な指導者の確保と競技環境の整備を推進するとともに、学生への学習面でのサポートへも力を注いできた。その結果、これまで 53 名のオリンピックを誕生させ、延べ 200 人以上を国際大会に輩出するとともに、文部科学省からは「スポーツ功労団体表彰」を 3 度受賞し、JOC からは初代「トップアスリート賞」を受賞している。このようなカレッジスポーツセンターの歴史や現状、課題について把握することは、上述したスポーツ科学部における体育・スポーツ活動を模索する上で欠くことのできない、最重要事項である。

ISS 教員勉強会は、授業実施期間における木曜日の早朝、隔週の頻度で開催している。カレッジスポーツセンターから事務長、各強化育成クラブ（全 17 クラブ）の部長や監督に各回一人ずつお越しいただき、表 1 に挙げられる項目を例に、現状と課題に関する情報を提供していただいている（写真 1）。2017 年度は、カレッジスポーツセンター事務長と 7 つの強化育成クラブから情報提供をいただき、それぞれの現状や課題、さらにはスポーツ科学部への期待、要望などを収集することができた。

## III. 今後の展望

FD 委員会では、2018 年度も ISS 教員勉強会を継続し、全強化育成クラブの現状や課題の収集に努める。得られた情報を集約し、スポーツ科学部教員の間、さらにはカレッジスポーツセンターと共有することで、今後の活動について模索していきたい。そして、本学の強みであるスポーツ競技力の向上以外にも、生涯スポーツの普及や社会貢献も視野に入れた勉強会を開催したい。これらはいずれも、本学のみならず、山梨県民、さらには日本国民の生活を支えるための体育・スポーツ活動について考えるものである。

<sup>1)</sup> 山梨学院大学スポーツ科学部

表 1. ISS 教員勉強会における強化指定クラブからの情報提供項目の例

(1) 組織体制
・ 入試（勧誘 等）
・ 人材（スタッフ数、選手数 等）
・ 財政（予算規模 等）
・ 施設
・ 情報
(2) 指導方針
・ 科学的サポートについて（生理学的、バイオメカニクスの、栄養学的、心理学的 等）
・ スポーツと学業の両立について
・ キャリア形成について
(3) リスクマネジメント
・ 怪我等の安全面について
・ 学生の不満等について
・ 予算管理について
(4) 社会・地域との連携について
・ 公開講座、運動教室などについて
・ 県や市との連携事業などについて
(5) 大学、カレッジスポーツセンター、スポーツ科学部 等への要望について



写真 1. ISS 教員勉強会の様子